

29S-pm11

保険薬局における薬剤師レジデントの展開

○吉山 友二¹, 清水 美希^{1,2}, 川上 美好¹, 飯塚 敏美^{1,2}, 西郷 勝行²,
堀口 雅巳², 石塚 英夫²(¹北里大薬,²望星薬局)

【目的】臨床薬学は初期の高度な病院薬剤師養成から、医薬分業の発展とともに保険薬剤師の質の向上へ拡大発展している。薬学 6 年制教育を受け立派な薬剤師として巣立ったことを併せ勘案し、医療系人材としてのセンスと質を具えた地域に貢献する保険薬剤師を養成することを目的として、保険薬局レジデントを導入したので報告する。【方法】対象者は薬学 6 年制教育を卒業した者かつ薬剤師免許取得者とし、期間を 1 年間に設定した。今回は、2012 年 3 月に薬学 6 年制教育を卒業し望星築地薬局に勤務する 1 期生を北里大学薬学部保険薬局学の講座研究員（レジデント）に登録した。研修内容は、保険薬局業務（50%）および研究・教育（50%）の割合とした。薬局における適切なプロジェクト（研究）を考案し、実行した。研究課題を保険薬局における医薬品適正使用に関する研究として取り組むこととした。また、4 年生後期の事前実習において一部を担当させた。【結果】最初にレジデントの意義と達成目標を概説した。勤務する保険薬局においてプロフェッショナルとしての技術を身につけた。2012 年度調剤報酬改定後の残薬確認の実態と対応について研究を進めた。また、後輩の育成に微力ながら携わることができ、貴重な体験として捉えた。【考察】講座研究員（レジデント）システムを活用することにより、より高度で新しい技術の習得やマネジメント能力を身につけて保険薬局におけるファーマシューティカルケアを提供し得た。また、適切なコミュニケーションによる患者対応や他の医療従事者と適切な関係を築き、情報交換を行うことも可能となった。プロジェクト（研究）の過程及び結果を臨床に還元することを通し、日々の実務の中で研究マインドをもって取り組むことの重要性を体得した。薬局および大学にて教育に関与することの意義も大である。